第4回茅野市地域創生総合戦略進行管理有識者会議

|  |  |
| --- | --- |
| 開催日時 | 平成28年10月18日（水）　　午前10時から正午まで |
| 開催場所 | 8階大ホール |
| 公開・非公開の別 | 公開 ・ 非公開 | 傍聴者の数 | 　　　　1人 |
| 議題及び会議結果 |
| 発言者 | 協議内容・発言内容（概要） |
| 事務局事務局事務局委員事務局委員事務局委員市長事務局委員事務局委員委員委員委員事務局委員事務局委員事務局委員 | 会議次第1　開会2　挨拶3　報告事項(1)前回の会議録について―――――説明―――――4　協議事項(1)これまでの会議でいただいたご意見のうち未回答のものについて―――――説明―――――※意見なし。(2)茅野市地域創生総合戦略の改定について―――――説明―――――【基本目標2　選ばれるまちをつくる】の改定について地域資源を活用した移住促進創業支援事業のゲストハウスはどの地区で準備を進めているのか。泉野地区、宮川地区、ちの地区の3ヶ所であるが、ちの地区については具体的な場所（物件）が確定していない。下諏訪町にマスヤゲストハウスがあり、八ヶ岳の登山客や海外旅行者、また地元の人も利用し、非常に活気のある場所になっている。茅野市のゲストハウスも旅行者のみならず地元の人にも利用されるような場所になってほしい。この事業は事業の実施者を公募し、市が補助金を交付するものであり、募集の要件では地域との関わりを重視し、交付決定している。現在、話が進んでいるものは地域との関わりも特徴的な取組を考えている。六本木ヒルズのカフェの場所をレンタルして様々な自治体がPRに来ているが、どの自治体も野菜や米、日本酒など同じようなものでPRしていて、どの自治体もあまり違いがないのでほとんど効果がない。他と違うことを考えると、茅野市は別荘が特徴なので別荘と観光をリンケージさせることが大切である。別荘滞在者が何を望んでいるかを把握することが必要である。今まで別荘滞在者にあまり積極的なアプローチもして来なかったので、別荘地に着目した取組を行っていきたい。市内の別荘滞在者や観光客のＧＰＳ調査をした速報であるが、ほとんどの人は、夕方から朝までは茅野市にいるが、昼間は茅野市にいないということが分かった。茅野市の昼間のプログラムやコンテンツが少ないので、別荘滞在者や観光客を対象にそれらを作っていきたい。あまり奇抜なものではなく、茅野市の中にある歴史、文化に注目しながら地道に行っていきたい。【基本目標3　楽しいまちをつくる】の改定について市のプロモーションなどに有名人を使うことや、かつて宿場町だった金沢地区を観光資源に活用することを検討したらどうか。国で2003年に観光立国の取組としてアイドルグループを使って海外のプロモーションを行ったが効果がなかった。海外の専門家の有識者会議で日本の魅力は日本人そのものや日本人の技、地域の資源であると指摘されて、方向転換を行いここ数年の効果に結び付いている。したがって、有名人を使うことは考えていない。矢部委員さんからも話があったが、各地域が同じようなことを行って、単なるＰＲで止まってしまっていることが問題である。滞在コンテンツひとつひとつの質を上げていくことが必要である。金沢地区とも会議を行ったが、観光マップを作ったあと、地区の人がガイドとしてお客さんからしっかり報酬をもらえるようになることが大切だとお話をした。観光客に感動してもらえるようなところまでコンテンツを磨き上げること、そのコンテンツをつなぎながら旅行商品にしていきたい。有名人を使うことは必ずしも反対ではない。例えば別荘のライフスタイルのベンチマークとして有名人を使うことには意義はある。「女性」と「健康」をキーワードにした商品開発事業で、自分にお金をかけることのできる世代をターゲットにしたらどうか。市内にある加圧トレーニングやマッサージ（リフレクソロジー）の価格や質は充実しているところが多い。温泉やアロマ、エステのマップがあると良い。新たに何かをするというよりも、今ある市内の店を活かすようなことが良い。また、Iターンで移住したい人や移住してきた人で、市内でキノコ採りや渓流釣り、山登りをしたい人を手引きする案内人マップのようなものがあった方が良い。案内人がお金をとっても良いし、新しい商品開発はしなくても、人を呼ぶことにつながる。別荘の人たち、移住の人たち、地域の人たちが分かれてはいけない。人との触れ合いが印象に残る。地区コミュニティセンターや公民館の行事で地元の人が企画するイベントに、色々な人が参加できるようにすることが良い。移住の最大の障害が地域の慣習や人のイメージで、地域と触れ合い楽しいと思ってもらうことが大切。触れ合うことで地域の意識も変わる。観光から人と触れ合ってもらえるような商品も必要である。茅野市は広くてまとまって何か行うということは難しいところがある。商業も観光も二地域居住も縁結びが大切である。色々ことを結ぶ。どのように結んだらよいかは市が情報を持っているので、市に具体化していってほしい。ここに住んでいる人たちが住んでいて良かったと実感されていることを磨き上げていきたい。有名人を呼んだ方がお金を落としてもらえるとは思うが、有名人は呼ばずに、地域にある歴史や文化、生活の営みから丁寧に大切なものを生み出して、観光客や別荘滞在者、移住希望者に共感してもらえるような観光まちづくりを進めていきたいと考えている。【基本目標4　若い世代を応援する】の改定について教育資金利子補給事業の周知の方法は、どのようなことを考えているか。今年度は茅野市ホームページ、広報ちの、新聞記事で周知した。来年度はあらゆる範囲に周知していきたい。市に帰還した場合に上乗せ利子補給するとあるが、市に帰還した場合とはどういうことか。大学卒業後に住民票を移したかどうかを確認している。【諏訪東京理科大学との連携強化による雇用の創出、若者の地元定着について】文章のつながりで、経営面から公立化を考えるようになったとあるが、より地域に貢献するために公立化の検討を始めたので、そのように修正してほしい。5　その他6　閉会 |
|  |  |